

レジリエントな社会への変革をリードする
産官学連携横浜国際教育プログラム (YOKOHAMA-SXIP)

2026 年度 募集要項

I. YOKOHAMA-SXIP の目的と概要

インド・オーストラリアの協定大学（以下、「協定校」という。）と共同で、横浜・神奈川地域の産官学ネットワークを活用して、レジリエントな社会への変革をリードし、持続可能な未来社会を創造する SX (Sustainability Transformation) 人材育成のための国際共修プログラムを構築することを目的とした協定校と本学の学生が相互訪問する国際教育プログラムです。

横浜国立大学が渡航費等を支援し、インド・オーストラリアの協定大学の学生とチームを組み、現代社会の諸課題の解決に向けて、持続可能性を前提にした次の 3 つの学修活動を行ないます。

- ①現地対面・オンライン学修併用による SX 課題に関する協働学修
- ②横浜・神奈川地域インダストリアルツアー・インターンシップ
- ③国際シンポジウムでの成果発表

当プログラムにおける 3 つのポリシー（別添 1）に基づき、持続可能な未来社会を創造する意欲を持ち、国際的に活躍する人材を目指し、積極的に取り組む参加者を募集します。

2. プログラム内容

- (1) 学内外の講師による概論講義や SX 講義の聴講、協定校の学生と対面・オンラインで企業等から出題された SX 課題の議論を行うグループ学修、現地で講義や文化・産業等を学ぶプログラムに参加。
- (2) 協定校からの学生受入時に、横浜・神奈川地域で SDGs に取り組む企業等を訪問するインダストリアルツアー・インターンシップ、文化交流活動等のイベントに参加。
- (3) グループの協働学修による成果を国際シンポジウムにて英語で発表。

3. 協定校（派遣はいずれか 1 校）

【インド】

- ・パンジャブ大学 (Panjab University)
- ・インド工科大学カンプール校 (IIT Kanpur : IITK)
- ・アンナ大学 (Anna University)
- ・ベロール工科大学 (Vellore Institute of Technology : VIT)

【オーストラリア】

- ・ニューカッスル大学 (The University of Newcastle : UON)
- ・グリフィス大学 (Griffith University)

4. 派遣期間

協定校毎の派遣時期は次のとおり。いずれも現地学修が原則 8 日間です。

	パンジャブ大学	IITK	アンナ大学	VIT	UON	グリフィス大学
派遣時期	夏季休業期間 中(8~9 月) に派遣するこ とを調整中	夏季休業期 間中(8~9 月)に派遣す ることを調整 中	夏季休業期 間中(8~9 月)に派遣す ることを調整 中	夏季休業期間 中(8~9 月)に 派遣することを 調整中	夏季休業期 間中(8~9 月)に派遣す ることを調整 中	夏季休業期間 中(8~9 月)に 派遣することを 調整中

※なお、航空便の運航スケジュールの変更等により変更となる場合があります。

※「調整中」の日程は、決まり次第、ウェブサイトを更新します。

※原則として、8~9月の派遣で調整中ですが、UON など、その他の月に派遣となる可能性もあります。

昨年度の派遣日程は「別添 2 昨年度(2025 年度)の渡航先スケジュール及び自己負担参考額」
をご参照ください。

5. 募集人数

1 協定校につき 1~3 名程度。

6. 派遣費用

(1) 大学負担費用

- ・授業料・プログラム費
- ・往復航空運賃の一部(関連諸税含む)：羽田又は成田~派遣先大学最寄りの空港
- ・国際線から国内線乗り継ぎ便に宿泊が発生した場合のホテル宿泊費用

(2) 自己負担費用

- ・参加費 3万円(往復航空運賃の一部に充当)
- ・宿泊費
- ・渡航準備費(パスポート取得費、VISA 取得費、予防接種・陰性証明取得費等)
- ・渡航諸経費(空港までの国内交通費、超過荷物輸送料、等)
- ・現地往復送迎費用：現地到着日及び出発日の現地空港~派遣先大学校間
- ・保険・危機管理サービス費(海外旅行保険料、OSSMA 加入料等)
- ・語学試験受験料(参加後に該当する語学試験スコアの提出が義務となっています)
- ・両替・送金等の際に発生する銀行手数料等
- ・派遣期間中の食費、日用品購入費、現地交通費、休日活動費等
- ・自己都合によるキャンセルや変更により発生する一切の費用

※病気その他の理由により海外での実習に参加できなくなった場合や、派遣前学修の参加状況等により派遣が取り消された場合には、自己負担分を含め、往復航空券代、手配済みの宿泊費、キャンセル料等の費用を負担していただきますので、ご了承ください。

・個人的な支出等

【参考】別添 2 昨年度(2025 年度)の渡航先スケジュール及び自己負担額

※日本学生支援機構(JASSO)奨学金(詳細は後述の「10.」を参照)の受給者はこれを自己負担費用に充てることができます。

7. 応募資格

- ・本学の正規の学生であること(留学生は除く)
- ・協定校毎に指定した学部・学府・学環の所属であること

	経済学部	経営学部	理工学部	理工学府	環境情報学府	先進実践学環※1
パンジャブ大学	○	○	○	○	○	○
IITK ※2			○	○	○	○
Anna大学			○	○	○	○
VIT			○	○	○	○
UON ※2			○	○	○	○
グリフィス大学	○	○				○

※1 先進実践学環の人文科学系はパンジャブ大学のみ、社会科学系はパンジャブ大学とグリフィス大学のみ、理工学系はグリフィス大学を除き、応募が可能です。

※2 IITK と UON については、現地でのラボ活動を前提とした派遣になります。該当分野の研究室の教員からの推薦を受けた学生を優先的に採用する可能性があります。

- ・ 原則として、TOEIC600 点以上 (IELTS 5.0 以上)と同等の語学力を有すること。英語統一テストのスコアを持っている人は、それを以って、「15. 問合せ先」に相談のこと。
ただし、TOEIC600 点以上であっても、渡航前の語学力向上を目的に、追加の課題を課す場合があります。
- ・ 期間中のプログラムに積極的に参加し、他の参加者と協調しつつ、与えられた課題に対して締め切りまでに責任を持って取り組む覚悟と能力を有すること。
- ・ プログラムの趣旨・目的を理解し、これに専念し、目的外の行動を取らないこと。
- ・ 応募の時点で少なくとも 2027年 3 月末まで有効のパスポートを有している、あるいは確実に取得できる見込みであること。

※病気・負傷や障害等のために特別な配慮が必要な場合は、応募までに、「15. 問合せ先」に相談してください。

※前年度までのプログラム参加者の再応募を妨げません。ただし、「SXIP 国際協働演習」科目及び「SXIP 国際協働実践演習」科目の履修はそれぞれ 1 度のみ可能です。

8. 参加の条件

- ・応募時及び帰国後速やかに、語学スコア (TOEIC、IELTS、TOEFL iBT、TOEFL ITP、英検等) の写しを提出すること。帰国後は、応募時に提出したスコアと同じ語学試験を受けて、結果を提出する

こと。

- ・5月28日(木)16:30~17:30に開催する事前説明会に参加すること。
- ・渡航前に「海外安全講習」(e-learning)を履修すること。
- ・指定された期日までに、海外旅行保険及びOSSMAに加入すること。
- ・協定校にて学修し、帰国後に報告書の提出とアンケートへの回答を行うこと。
- ・学部生は別添3「SXIP 国際協働演習」を、大学院生は別添4「SXIP 国際協働実践演習」を履修すること。(卒業に必要な単位に算入されるか否かは各学部・学府、学環によって取扱いが異なります)
- ・10~12月に開催予定の日本語による事後報告会にて自身の成果報告を行うこと。

9. 日程

2月、4月	公募説明会 ① 2月9日(月)16:20~17:00 ② 4月16日(木)12:15~12:45 ③ 4月21日(火)12:15~12:45 場所: 学生センター(S5-1)1階ナビポート
5月	面接・選定結果通知、派遣者対象のプログラム履修説明会及び事前説明会参加
5/28(木)	事前説明会(派遣学生向け)16:30~18:30
6/11(木)	派遣・受入れ合同説明会 16:30~17:30
6~9月	国際協働学修(協定校の学生とオンラインで事前学修) 概論講義(YOKOHAMA-SXIP Overview Lectures)聴講
6月~8月	渡航・受入前の英語事前学修
8/25~9/4 (予定)	協定校からの学生受入 (グループ学修、横浜・神奈川地域インダストリアルツアー・インターンシップ等)、協定校の学生との交流(学生による企画・引率))
9/2~3 (予定)	国際シンポジウムでグループ学修の成果発表
8月~9月	協定校へ派遣(派遣時期は前述4. 派遣期間を参照)
11~12月	SXIP産官学連携人材育成セミナー
10~12月	事後報告会

10. 日本学生支援機構(JASSO)奨学金について

海外留学支援制度(協定派遣)の資格・要件を満たす学生は、海外留学支援制度(協定派遣)への応募が可能です: インド8万円、オーストラリア9万円
※JASSOによる奨学金を受給された者はSXIPの派遣報告書とは別にJASSOの報告書を提出していただきます。

11. その他

- ・ 研究室所属の学生は、指導教員に相談の上、応募してください。
- ・ 本プログラムでは、事前学修、日本での実習及び海外での実習を連続した一つの研修としています。海外からの SXIP 学生受入れ期間中（8 月 25 日～9 月 4 日（予定））の間に、参加できない期間が含まれる場合は、応募申請書の「その他」欄に必ず参加できない日及び理由を記入してください。
- ・ 本プログラム参加時（受入及び派遣）に本学に提出した各種報告書、写真及び本プログラムの行事において撮影された写真・動画等については、本プログラムに関連する広報及び教育目的のため、本学、協定校、本プログラム協力企業の広報、ウェブサイトコンテンツ等に使用される場合があります。
- ・ 本学の教職員による引率（派遣）は一部を除き、ありません（グリフィス大学及びパンジャブ大学は一部の期間について引率ありの予定ですが、引率なしとなる可能性もあります）。
- ・ 「SXIP 国際協働演習」科目及び「SXIP 国際協働実践演習」科目は、YOKOHAMA-SXIP 副専攻プログラムの科目における海外研修に相当する科目として申請可能。
- ・ YOKOHAMA-SXIP においては、プログラム参加者による同窓会ネットワークの構築を目指しておりますので、Facebook にご参加ください。もしくは Facebook で使用可能なメールアドレスをご連絡ください。
- ・ 令和 8 年度国際化拠点整備事業費補助金（大学の世界展開力強化事業）の予算の確定状況やその他の事情により、派遣人数・内容等を変更する場合があります。

12. 応募方法

ウェブサイトに掲載されている様式をダウンロードして入力し、授業支援システム 授業科目名：【連絡専用】YOKOHAMA-SXIP 事務局（国際企画係）へ、応募期間中（2026 年 4 月 10 日（金）～4 月 27 日（月）午後 1 時）にアップロードすること。

申請には以下の書類のアップロードが必要です。

- ① 申請書（ファイル名「申請書_学籍番号_氏名」とし、Excel ファイルのまま提出すること）
- ② 面接日程調整表（ファイル名「面接日程調整表_学籍番号_氏名」とし、Excel ファイルのまま提出すること）
- ③ 誓約書（印刷し必要事項を記入後、PDF 又は画像データとし、ファイル名「誓約書_学籍番号_氏名」提出すること）
※面接時に原本を提出してもらいます。
- ④ 成績証明書（PDF 又は画像データとし、ファイル名「成績証明書_学籍番号_氏名」とすること）
- ⑤ 学生証写し（PDF 又は画像データとし、ファイル名「学生証_学籍番号_氏名」とすること）
- ⑥ パスポート写し（パスポート番号や顔写真のページのカラー版。PDF 又は画像データとし、ファイル名「パスポート_学籍番号_氏名」とすること）
- ⑦ 語学スコアを証明する書類（PDF 又は画像データとし、ファイル名「語学スコア_学籍番号_氏名」とすること）

号_氏名」とすること)

①～③をウェブサイトからダウンロードしてください。

<https://global.ynu.ac.jp/education/education-3004/>

③～⑦については、スキャンした PDF の提出が望ましいですが、画像データで提出の場合は文字が鮮明であることに留意してください。

【 締切 4月27日(月)13:00 厳守 】

※応募書類の準備に時間を要するものがありますので、余裕を持って申請してください。

13. 選考方法

- ・書類審査及び面接審査。面接日は5月7日(木)～13日(水)を予定。学会参加等やむを得ない事情によりこの期間に都合がつかない場合は、応募時に申し出てください。
- ・応募書類及び面接等による総合的な評価に基づき、協定校の受入態勢や実施計画等も勘案の上、選考します。

14. 選考結果

- ・5月25日(月)までに応募者全員に選考結果を通知します。
- ・選考の結果、派遣が決定した方は、5月28日(木)16:30～17:30に開催される説明会に出席してください。都合がつかない場合はご相談ください。

15. 問合せ先:

学務・国際戦略部グローバル推進課国際企画係(学生センター2階)

e-mail : yokohama-sxip@ynu.ac.jp

以上

別添 1 「レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム」における3つのポリシーについて

別添 2 昨年度(2025年度)の渡航先スケジュール及び自己負担参考額

別添 3 (学部版) SXIP 国際協働演習シラバス(2025年度)

別添 4 (大学院版) SXIP 国際協働実践演習シラバス(2025年度)

「レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携横浜
国際教育プログラム」における3つのポリシーについて

【受入・派遣の方針】

本プログラムの目的を理解し、幅広い視点から社会課題を持続可能な社会に向けて科学的・実践的に解決しようという意欲があり、多様な背景を持つ学生同士で学び合うことに積極的な姿勢を持つ学生を対象に受入れ、派遣を実施する。

【カリキュラム方針】

社会的レジリエンスに関わる専門知識と方法を身に付け、学部生についてはグローバル社会のサステナビリティ課題から事業を構想できる、大学院生についてはグローバル社会のサステナビリティ課題に対し分野横断的に先端技術を活用して課題を解決するための新技術を創造できるカリキュラムを設定する。

【修了証・単位授与方針】

社会的レジリエンスと持続可能性に関する専門知識を身に付け、多様な背景を持つ学生と意思疎通を行いながら、持続可能性に配慮した実践的課題解決能力を修得した者に修了証に相当するオープンバッジを授与する。本プログラムに関わる授業、演習、インターンシップなどの実習科目を修めた場合、本学およびパートナー大学との事前の協議に基づいて、部分的修学の承認を行う（高等教育の資格の承認に関するアジア太平洋地域規約（通称「東京規約」）に準拠する）。

昨年度（2025 年度）の渡航先スケジュール及び自己負担参考額

パンジャブ大学 (2025 年 9 月)

◇2025 年度派遣時の活動内容

9/14(日)	羽田空港→デリー空港 (デリー泊)
9/15(月)	午前中デリー市内視察、午後デリー空港→Chandigarh 空港 日本へ派遣された学生との交流会
9/16(火)	大学内の化学工学に関係する施設 (教室、実験室、研究施設等) を訪問
9/17(水)	SIGNUM(PCB 基板を製造する会社) 訪問 Siswan Dam 湖を散策
9/18(木)	Ethnic Day に参加
9/19(金)	歴史・建築・科学の 3 つの博物館を見学 エランテ・モールを散策
9/20(土)	現地学生とローズ・ガーデンで交流会 スクナ湖周辺訪問
9/21(日)	Free day
9/22(月)	大学内施設訪問
9/23(火)	工場見学 (LED 光源のメーカーとアイスクリームの製造会社)
9/24(水)	学内散策、午後 Chandigarh 空港出発→デリー空港→
9/25(木)	羽田空港

注：あくまで応募検討の参考・便宜のために開示するものです。

今年度の具体的活動内容については、協定校側と協議の上決定します。

◇現地での滞在費用 (参考情報：2025 年度派遣学生報告より抜粋)

交通費：空港－大学間は送迎手配あり。自己負担無し。

その他、外出時のタクシー代等 2,000 円程度。

宿泊費：約 20,000 円 (パンジャブ大学のゲストハウス、朝食・水代含む)

食 費：約 10,000 円

注：上記は 2025 年度の一例です。季節的な要因や派遣大学の学内行事等により各費目の派遣生負担の有無、及び「有り」の場合の金額は変わります。また、参加者個人的な消費行動によっても異なります。その旨をご了承ください。(1 ルピーは 1.8 円で換算)

IITK (2025 年 9 月)

◇2025 年度派遣時の活動内容

9/14(日)	羽田空港→デリー空港 デリー泊
9/15(月)	デリー空港→ラクナウ空港 IITK へ移動
9/16(火)	派遣学生による研究のプレゼン、IITK 研究室紹介
9/17(水)	研究室見学、教授宅で夕食
9/18(木)	各々受入研究室で活動 キャンパスツアー、カンプールツアー
9/19(金)	
9/20(土)	
9/21(日)	
9/22(月)	カルチュラルツアー
9/23(火)	各々受入研究室で活動 Flight Laboratory, National Wind Tunnel Facility Tour 文化交流、ダンスパーティー, 研究総まとめ、Farewell dinner
9/24(水)	
9/25(木)	
9/26(金)	
9/27(土)	IITK→ラクナウ空港→デリー空港→
9/28(日)	羽田空港

注：あくまで応募検討の参考・便宜のために開示するものです。

今年度の具体的活動内容については、協定校側と協議の上決定します。

◇現地での滞在費用（参考情報：2025 年度派遣学生報告より抜粋）

交通費：空港・IITK 間の送迎あり。自己負担無し。

外出時の交通費 400 円程度。

宿泊費：IITK のホステルに宿泊。自己負担無し。

食 費：ホステルで食事の提供あり。外食 4,000 円程度。

その他お土産等：実費

注：上記は 2025 年度の一例です。季節的な要因や派遣大学の学内行事等により各費目の派遣生負担の有無、及び「有り」の場合の金額は変わります。また、参加者個人的な消費行動によっても異なります。その旨をご了承ください。（1 ルピーは 1.8 円で換算）

アンナ大学 (2025 年 9 月)

◇2025 年度派遣時の活動内容

9/19(金)	羽田空港→チャンギ空港経由→チェンナイ空港 空港周辺ホテルに宿泊
9/20(土)	アンナ大学へ移動 大学内および周辺の案内
9/21(日)	Free day (現地学生と交流)
9/22(月)	講義
9/23(火)	企業訪問(Money Forward, JETRO)
9/24(水)	コンピュータサイエンスに関する講義 デザインシンキングに関する講義
9/25(木)	医用生体工学に関する講義 MIT キャンパス訪問
9/26(金)	NIOT 訪問 (海洋管理) 碑文に関する講義
9/27(土)	カルチュラルツアー (Mahabalipuram)
9/28(日)	Free day (現地学生と交流)
9/29(月)	チェンナイ空港→チャンギ空港経由→
9/30(火)	羽田空港到着

注：あくまで応募検討の参考・便宜のために開示するものです。

今年度の具体的活動内容については、協定校側と協議の上決定します。

◇現地での滞在費用 (参考情報：2025 年度派遣学生報告より抜粋)

交通費：アンナ大学の送迎がある。

初日宿泊するホテルまでの移動や自由行動時のタクシー代は自己負担。

寮 費：食費の分として約 5,000 円。

食 費：寮で提供されるが、外食時は実費。(5,000 円程度)

注：上記は 2025 年度の一例です。季節的な要因や派遣大学の学内行事等により各費目の派遣生負担の有無、及び「有り」の場合の金額は変わります。また、参加者個人的な消費行動によっても異なります。その旨をご了承ください。(1 ルピーは 1.8 円で換算)

VIT (2025 年 9 月)

◇2025 年度派遣時の活動内容

9/17(水)	羽田空港→
9/18(木)	チャンギ空港経由→チェンナイ空港 チェンナイキャンパスへ移動 キャンパスツアー
9/19(金)	研究室見学、日本文化サークルとの交流
9/20(土)	マハーバリプラム遺跡訪問
9/21(日)	ショッピングモール散策
9/22(月)	研究室見学、実験参加
9/23(火)	チェンナイキャンパス→ベロールキャンパス
9/24(水)	キャンパスツアー
9/25(木)	寺院訪問
9/26(金)～9/29(月)	GraVITas – Student Technical Festival
9/30(火)	(以降は学会参加学生の日程) ポンディシェリ訪問
10/1(水)	学会準備
10/2(木)	ベロールキャンパス周辺散策
10/3(金)	学会準備
10/4(土)	SCHEMCON 2025
10/5(日)	チェンナイ空港→
10/6(月)	チャンギ空港経由→羽田空港

注：あくまで応募検討の参考・便宜のために開示するものです。

今年度の具体的活動内容については、協定校側と協議の上決定します。

◇現地での滞在費用（参考情報：2025 年度派遣学生報告より抜粋）

交通費：VIT 送迎あり。一部自己負担あり。

宿泊費：VIT のホステルに宿泊。ベロールキャンパスの学生寮費は約 10,000～40,000 円（滞在日数による）、チェンナイキャンパスの学生寮は自己負担無し。

食 費：学生寮で食事の提供あり、外食時は 1 食 500 円程度。

参考トータル額：5 万～8 万円に収まる程度（滞在日数や個人の消費の程度による）。

注：上記は 2025 年度の一例です。季節的な要因や派遣大学の学内行事等により各費目の派遣生負担の有無、及び「有り」の場合の金額は変わります。また、参加者個人的な消費行動によっても異なります。その旨をご了承ください。（1 ルピーは 1.8 円で換算）

UON （2025 年 10 月）

◇2025 年度派遣時の活動内容

10/5(日)	羽田空港→
10/6(月)	シドニー空港からニューカッスルへ電車で移動 現地学生と再会
10/7(火)	UON ナノマテリアル研究所（GICAN=Global Innovation Center for Advanced Nanomaterials）研究室訪問 現地学生と再会、キャンパスを見学
10/8(水)	UON で ID を取得、安全講習受講
10/9(木)	研究室で実験
10/10(金)	研究室で実験
10/11(土)	Hunter Valley 訪問
10/12(日)	Oakvale Wildlife Park 訪問
10/13(月)	研究室で実験
10/14(火)	研究室で実験
10/15(水)	研究室で実験
10/16(木)	研究室で実験
10/17(金)	ニューカッスル→シドニー→羽田空港

注：あくまで応募検討の参考・便宜のために開示するものです。

今年度の具体的活動内容については、協定校側と協議の上決定します。

◇現地での滞在費用（参考情報：2025 年度派遣学生報告より抜粋）

宿泊費：寮費約 77,000 円

宿泊費を除いた現地生活費は JASSO 奨学金範囲内で賄える程度

注：上記は 2025 年度の一例です。季節的な要因や派遣大学の学内行事等により金額は変動します。また、参加者個人的な消費行動によっても異なります。その旨をご了承ください。（1 豪ドルは 100 円で換算）

グリフィス大学 (2025 年 9 月)

◇2025 年度派遣時の活動内容

9/6(土)	羽田空港→
9/7(日)	シドニー空港→ゴールドコースト空港→各自の滞在先へ移動
9/8(月)	キャンパスツアー 課題説明
9/9(火)	ゴールドコースト市主催アクティビティ(Naturally GC)への参加-Botanical Watercolour Painting, Sea Slug Survey in the Rocky Shores
9/10(水)	講義受講、プレゼンの準備
9/11(木)	講義受講、プレゼンの準備
9/12(金)	講義受講、プレゼンの準備
9/13(土)	ゴールドコースト市主催アクティビティ(Naturally GC)への参加-Bushtucker, Swell Sculpture Festival, Creatures of the Dark
9/14(日)	ブリスベン訪問、グリフィス大学からの SXIP 参加学生と再会
9/15(月)	講義受講、プレゼン最終発表
9/16(火)	Free day (Currumbin Wildlife Sanctuary)
9/17(水)	ゴールドコースト空港→シドニー空港→
9/18(木)	羽田空港

注：あくまで応募検討の参考・便宜のために開示するものです。

今年度の具体的活動内容については、協定校側と協議の上決定します。

◇現地での自己負担額（参考情報：2025 年度派遣学生報告より抜粋）

交通費：1,000 円～10,000 円程度（滞在先による）

公共交通機関（バス/トラム）は一回利用につき A\$0.50

宿泊費：60,000 円程度（ホームステイや Airbnb 等を各自手配）

食 費：10,000～15,000 円程度（学内の昼食が一食 1,500 円程度）

注：上記は 2025 年度の一例です。季節的な要因や派遣大学の学内行事等により金額は変動します。また、参加者個人的な消費行動によっても異なります。この旨をご了承ください。（1 豪ドルは 100 円で換算）

時間割コード:9103006					日本語シラバス		
SXIP国際協働演習[SXIP Joint Group Exercise]							
■ ■ 担当教員							
中村 一穂, 田名部 元成, マッコーレー アレック, 前田 雄介, 吉武 英昭, 伊藤 暁彦, 鈴木 淳史[NAKAMURA KAZUHO, TANABU MOTONARI, ALEXANDER MCAULAY, MAEDA YUUSUKE, YOSHITAKE HIDEAKI, ITO AKIHIKO, SUZUKI ATSUSHI]							
■ ■ 開講学部等	全学教育／教養教育	■ ■ 対象年次	1～4	■ ■ 単位数	2	■ ■ 使用言語	英語
■ ■ 開講時期	通年		■ ■ 開講曜限	不定期		■ ■ クラス	
■ ■ 授業形態	対面		■ ■ 授業形態 (詳細)			■ ■ 授業方法	演習
■ ■ 特記事項							
■ ■ ナンバリングコード		GL.1161			■ ■ 実務経験のある教員による授業		

授業の目的

グローバル社会のサステナビリティ課題から事業を構想し、ステークホルダーと協働して新しい仕組みや新技術を社会実装する起業家（SX(Sustainability Transformation)リーダー）に求められる素養を育成することを目的とする。

日本人と外国人からなる国際的かつ分野横断型の学生チームを結成し、提示される持続可能な社会の創造に向けた課題に対して、主体的に計画を作成し双方向交流を行う。具体的には下記①～③のプログラムに取り組む。①海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インターンシップ/インダストリアルツアー、文化交流活動：実社会での体験により経済のグローバル化、先端科学産業への理解を深め、社会実装の企画力を育む。②国際協働学修：チームごと与えられるSX課題についてWebによるディベートを行う。海外のパートナー大学において国際協働海外研修に参加し、関連講義、実践的ワークショップ、共同研究などの取組みを通じて、国際社会、異文化への理解を総合的に深めると共に研究・開発能力を高める。③共同国際シンポジウム（＋成果報告）：学生企画による成果報告セッションを設け、プログラム体験を深く考察し発表報告、議論することにより、プレゼンテーション力、ディベート力とともに、経済合理性を持って新しい仕組みや技術を社会実装する企画力を養成する。これらのチームによる取組を通じて語学力、コミュニケーション能力、リーダーシップを育むとともに、自らの専門分野の位置づけを明確に認識して活躍できる専門家を育成する。

授業計画

（項目説明）授業全体のスケジュールを示しています。学修計画を立てる際の参考にしてください。

- 1 ガイダンス
- 2 国際協働学生チームによるSX課題のWebディベート
- 3 国際協働学生チームによるSX課題のWebディベート
- 4 国際協働学生チームによるSX課題のWebディベート
- 5 海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インダストリアルツアー／インターンシップ、文化交流活動
- 6 海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インダストリアルツアー／インターンシップ、文化交流活動
- 7 海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インダストリアルツアー／インターンシップ、文化交流活動
- 8 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 9 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 10 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 11 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 12 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 13 シンポジウム（成果報告会）の準備および発表
- 14 シンポジウム（成果報告会）の準備および発表
- 15 シンポジウム（成果報告会）の準備および発表

授業時間外の学修内容

（項目説明）授業全体を通して授業前に予習すべき内容、授業後に復習すべき内容を示しています。単位は、授業時間前後の予習復習を含めて認定されます。

- ・与えられた課題の調査と英語での討論の準備
- ・各取組内容についてまとめと成果報告会の準備
- ・報告書の作成

■ 履修目標

（項目説明）授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

- ・SXに関する英語ディベートが行える。
- ・国際的かつ分野横断型の学生チームのリーダーとしてグループワークを推進できる。
- ・取組を通じて新たなSX課題を見出し、経済合理性を持った解決の仕組みや技術を社会実装する企画が提案できる。

■ 到達目標

（項目説明）授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- ・SXに関する英語プレゼンテーションが行える。
- ・国際的かつ分野横断型の学生チームによるグループワークに参加できる。
- ・取組を通じてSX課題について理解する。

■ 成績評価の方法

（項目説明）成績評価の方法と評価の配分を示しています。

取組の積極性、英語によるディベート、プレゼンテーション、成果報告書、海外研修先のからの参加学生の評価などを総合して行う。

■ 成績評価の基準 -ループリック-

（項目説明）授業別ループリックでは評価の項目と、成績評価の基準との関係性を確認できます。（表示されない場合もあります。）

【成績評価の基準表】

秀(S)	優(A)	良(B)	可(C)	不可(F)
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成できていない

履修目標：授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標

到達目標：授業において最低限学生が身につける内容を示す目標

【授業別ループリック】

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる(履修目標)	やや努力を要する	努力を要する(到達目標)	相当の努力を要する
課題を解く力	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても課題を自発的に解くことができない。
解法を口頭で説明する力（プレゼン内容）	聴衆を引きつける説明ができる。	聴衆の理解を助ける説明ができる。	板書内容を補足する説明ができる。	板書内容を正しく説明することができる。	板書内容を正しく説明できない。
解法を文書で説明する力（レポート内容）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	必要な式は書くことができる。	必要な式が欠落している内容である。

■ 授業の方法

（項目説明）教員が授業をどのように進めるのか、課題提出などの情報もあわせて示しています。

ガイダンスでの指示に従うこと。

■ 教科書

■ 教科書補足

■ 参考書

参考書補足

教科書は特に指定しない。必要に応じて参考書を紹介し印刷物を配布する。

履修条件および関連科目

（項目説明）この授業を履修するにあたってあらかじめ履修が必要な授業、並行して履修することによって学修効果を高める授業などを示しています。

「海外安全講習」（E-learning）を受講すること。

レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム（YOKOHAMA-SXIPプログラム）に係る学生派遣が認められた者のみが履修できる科目のため、履修登録期間内の登録はできません。（履修登録にあたってはYOKOHAMA-SXIPプログラム問い合わせ先（学務・国際戦略部グローバル推進課国際企画係）に相談すること。）

キーワード

海外研修（Overseas Training）、インターンシップ（Internship）、プレゼンテーション（Presentation）

備考

地球温暖化などのグローバルな環境問題、テクノロジーの進化による産業構造の変化、新型コロナウイルスの流行などにより、私たちを取りまく環境は急速に変化しています。本演習では、インドとオーストラリアのパートナー大学と連携し、主体的にサステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）に関する課題を見つけて、双方向の交流を行います。実際に海外の学生や教員と対面に対話することで、インターネットやSNSでは得られない交流ができ、お互いの価値観を理解することができます。

授業アンケート結果に対する担当教員からのコメント

参照ホームページ

授業評価アンケート公開

教員からの一言

オフィスアワー

連絡先（教員室）

化工安工棟519号室

連絡先（電話番号）

-

連絡先（メールアドレス）

naka1@ynu.ac.jp

備考3

ホームページ

<http://www.nakamuralab.ynu.ac.jp/>

時間割コード:9GC5101				日本語シラバス			
SXIP国際協働実践演習[SXIP Joint Group Practical Exercise]							
■ ■ 担当教員							
前田 雄介, 吉武 英昭, 中村 一穂, 松田 裕之, 伊藤 暁彦, 鈴木 淳史[MAEDA YUUSUKE, YOSHITAKE HIDEAKI, NAKAMURA KAZUHO, MATSUDA HIROYUKI, ITO AKIHIKO, SUZUKI ATSUSHI]							
■ ■ 開講学部等	全学教育／教養教育	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数	2	■ ■ 使用言語	英語
■ ■ 開講時期	通年		■ ■ 開講曜限	不定期		■ ■ クラス	
■ ■ 授業形態	対面		■ ■ 授業形態 (詳細)			■ ■ 授業方法	演習
■ ■ 特記事項	大学院全学教育科目						
■ ■ ナンバリングコード					■ ■ 実務経験のある教員による授業		

授業の目的

グローバル社会のサクテナビリティ課題を見出し、分野横断的に先端技術を活用して解決技術を創造する実践的研究者／エンジニアに求められる素養を育成することを目的とする。

日本人と外国人からなる国際的かつ分野横断型の学生チームを結成し、提示される持続可能な社会の創造に向けた課題に対して、主体的に計画を作成し双方向交流を行う。具体的には下記①～③のプログラムに取り組む。①海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インターンシップ/インダストリアルツアー、文化交流活動：実社会での体験により経済のグローバル化、先端科学産業への理解を深め、社会実装の企画力を育む。②国際協働学修：チームごと与えられるSX課題についてWebによるディベートを行う。海外のパートナー大学において国際協働海外研修に参加し、関連講義、実践的ワークショップ、共同研究などの取組みを通じて、国際社会、異文化への理解を総合的に深めると共に研究・開発能力を高める。③共同国際シンポジウム（＋成果報告）：学生企画による成果報告セッションを設け、プログラム体験を深く考察し発表報告、議論することにより、プレゼンテーション力、ディベート力とともに、経済合理性を持って新しい仕組みや技術を社会実装する企画力を養成する。これらのチームによる取組を通じて語学力、コミュニケーション能力、リーダーシップを育むとともに、自らの専門分野の位置づけを明確に認識して活躍できる専門家を育成する。

授業計画

（項目説明）授業全体のスケジュールを示しています。学修計画を立てる際の参考にしてください。

- 1 ガイダンス
- 2 国際協働学生チームによるSX課題のWebディベート
- 3 国際協働学生チームによるSX課題のWebディベート
- 4 国際協働学生チームによるSX課題のWebディベート
- 5 海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インダストリアルツアー／インターンシップ、文化交流活動
- 6 海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インダストリアルツアー／インターンシップ、文化交流活動
- 7 海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インダストリアルツアー／インターンシップ、文化交流活動
- 8 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 9 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 10 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 11 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 12 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 13 シンポジウム（成果報告会）の準備および発表
- 14 シンポジウム（成果報告会）の準備および発表
- 15 シンポジウム（成果報告会）の準備および発表

授業時間外の学修内容

（項目説明）授業全体を通して授業前に予習すべき内容、授業後に復習すべき内容を示しています。単位は、授業時間前後の予習復習を含めて認定されます。

- ・与えられた課題の調査と英語での討論の準備
- ・各取組内容についてまとめと成果報告会の準備

- ・報告書の作成

■ 履修目標

（項目説明）授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

- ・SXに関する英語ディベートが行える。
- ・国際的かつ分野横断型の学生チームのリーダーとしてグループワークを推進できる。
- ・取組を通じて新たなSX課題を見出し、経済合理性を持った解決の仕組みや技術を社会実装する企画が提案できる。
- ・分野横断的に先端技術を活用して解決技術を創造するための研究計画、開発計画を提案できる。

■ 到達目標

（項目説明）授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- ・SXに関する英語プレゼンテーションが行える。
- ・国際的かつ分野横断型の学生チームによるグループワークに参加できる。
- ・取組を通じてSX課題について理解する。
- ・自らの専門分野の位置づけを認識でき、説明できる。

■ 成績評価の方法

（項目説明）成績評価の方法と評価の配分を示しています。

取組の積極性、英語によるディベート、プレゼンテーション、成果報告書、海外研修先からの参加学生の評価などを総合して行う。

■ 成績評価の基準 -ルーブリック-

（項目説明）授業別ルーブリックでは評価の項目と、成績評価の基準との関係性を確認できます。（表示されない場合もあります。）

【成績評価の基準表】

秀(S)	優(A)	良(B)	可(C)	不可(F)
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成できていない

履修目標：授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標

到達目標：授業において最低限学生が身につける内容を示す目標

【授業別ルーブリック】

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる(履修目標)	やや努力を要する	努力を要する(到達目標)	相当の努力を要する
課題を解く力	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても課題を自発的に解くことができない。
解法を口頭で説明する力（プレゼン内容）	聴衆を引きつける説明ができる。	聴衆の理解を助ける説明ができる。	板書内容を補足する説明ができる。	板書内容を正しく説明することができる。	板書内容を正しく説明できない。
解法を文書で説明する力（レポート内容）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	必要な式は書くことができる。	必要な式が欠落している内容である。

■ 授業の方法

（項目説明）教員が授業をどのように進めるのか、課題提出などの情報もあわせて示しています。

ガイダンスでの指示に従うこと。

■ 教科書

■ 教科書補足

参考書

参考書補足

教科書は特に指定しない。必要に応じて参考書を紹介し印刷物を配布する。

履修条件および関連科目

（項目説明）この授業を履修するにあたってあらかじめ履修が必要な授業、並行して履修することによって学修効果を高める授業などを示しています。

「海外安全講習」（E-learning）を受講すること。

レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム（YOKOHAMA-SXIPプログラム）に係る学生派遣が認められた者のみが履修できる科目のため、履修登録期間内の登録はできません。（履修登録にあたってはYOKOHAMA-SXIPプログラム問い合わせ先（学務・国際戦略部グローバル推進課国際企画係）に相談すること。）

キーワード

海外研修（Overseas Training）、インターンシップ（Internship）、プレゼンテーション（Presentation）

備考

地球温暖化などのグローバルな環境問題、テクノロジーの進化による産業構造の変化、新型コロナウイルスの流行などにより、私たちを取りまく環境は急速に変化しています。本演習では、インドとオーストラリアのパートナー大学と連携し、主体的にサステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）に関する課題を見つけて、双方向の交流を行います。実際に海外の学生や教員と対面に対話することで、インターネットやSNSでは得られない交流ができ、お互いの価値観を理解することができます。海外でのラボ活動や国際シンポジウムのイベントを通じて、自らの研究の世界へのアピールと世界における研究レベルについて理解する機会が得られます。

授業アンケート結果に対する担当教員からのコメント

参照ホームページ

授業評価アンケート公開

教員からの一言

オフィスアワー

金曜日 16:15～17:45

連絡先（教員室）

機械工学・材料棟603

連絡先（電話番号）

-

連絡先（メールアドレス）

maeda@ynu.ac.jp

備考3

ホームページ

<https://iir.ynu.ac.jp/index-j.html>